

## 【彙報】

術観の検討——未発表の評論とチャツプリン映画への寸評に基づいて」というテーマでそれぞれ発表を行った。

○二〇二五年（令和七年）四月に山口大学教育学部に赴任された石井雅巳氏が新たに会員になられた。

○正会員数は現在一二名である。

○本巻の刊行費用の一部として、山口大学人文学部の予算より支給された「令和七年度刊行物助成経費」を充てた。

○正会員で、人文学部 教員の伊藤裕水氏が二〇二五年三月に逝去された。

○二〇二五年九月一九日、「二〇二五（令和七）年度山口大学哲学研究会」を開催し、本会会員のジュマリ・アラムが『《キャラ活》の精神分析——転移を中心に』、村上龍が「文化史上の「創られた伝統」をポジティブに評価する?——「演歌」「フィルム・ノワール」の事例にそくして」、美学・美術史修士課程の小林静梨が「「技巧」を排し「直観」を重んじる中原中也の芸